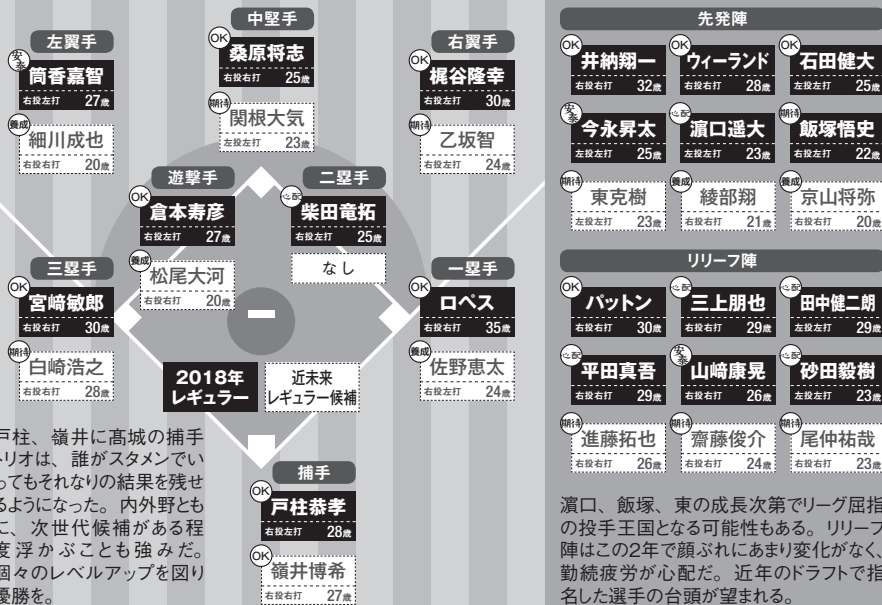


# 12球団ドラフト採点&近未来展望

## 2018年予想布陣と近未来レギュラー候補



※年齢はすべて2018年の満年齢

瀧口、飯塚、東の成長次第でリーグ屈指の投手王国となる可能性もある。リリーフ陣はこの2年で顔ぶれにあまり変化がなく、勤続疲労が心配だ。近年のドラフトで指名した選手の台頭が望まれる。

### 会心の指名

## 阪口皓亮 (北海道)

夏の甲子園で注目を集めた好投手。マウンドでのきれいな佇まいは天性のもので、大柄だが身のこなしは軽い。しっかりと間をとって投げることができ、球の角度も長身を生かしている。まだフォームの再現性が低く、150キロ近いストレートでも高校生に鋭い当たりを飛ばされることがある。だが、未完成の状態であれだけの球を投げられるということは、完成したときにどんな球を投げるのか、今から楽しみだ。4年後のローテーション入りが当面の目標だ。



### 将来有望

3位の阪口皓亮 (北海道) は今

が、代打として即戦力になれる。の影響でポジションがネックだが、代打として即戦力になれる。ケガの影響でポジションがネックだが、代打として即戦力になれる。

も捕手はまだ実質1年目なので、全体のレベルを上げながら、自慢の強肩でポジションをつかみたい。

8位の楠本泰史 (東北福祉大) はバットコントロールに定評がある外野手。特に内角のさばき方はプロでもなかなか見られない。ケガの影響でポジションがネックだが、代打として即戦力になれる。

バックアップ要員の座を確保することが最初の目標となる。6位の寺田光輝 (石川ミリオンスターズ) は快速サイド右腕。独立リーグに行ってから急成長した。スライダー、カーブ、カットボール、ツーシームと変化球が多彩だ。年齢的にも1年目からリリーフの一角に食い込みたい。

夏の甲子園で一躍注目を浴びた大型右腕。すらっとした長身から投げるキレイな球筋は高校生離れしている。素材型ゆえに課題は多いが、1つ1つ解消していき、全体的に質を上げていけば、将来圧倒的な投球ができるはず。プランを立てて、しっかりと育てたい。